

**第2回 「インパクト投資に関する勉強会」
【概要版】アンケート分析結果（n=33）**

2020年9月3日

一般財団法人社会変革推進財団

- アンケート分析概要は以下のとおり。

【取組】

- ✓ 具体的取り組みを実施していない会社・機関は少数派であり、「金融商品の組成・販売」が一番多いが、その他も多様な取り組みがなされている。具体的な取り組みとしては、未公開ファンド、融資、上場株式投信が多い。
- ✓ 今後の方向性としては、インパクトの把握・改善、創出、商品の組成・販売が重要と考えられている
- ✓ 未公開ファンド、融資、上場株式投信などの採用を検討する企業が多い

【立ち位置】

- ✓ 会社の立ち位置、個人としての見解のいずれも、通常と同程度のリスク・リターンで高いインパクトを追求している。
- ✓ 個人として、現状に比して「インパクトの追求によりリスク・リターンを改善させる」方針をとるべきという意見が多い。

【受託者責任】

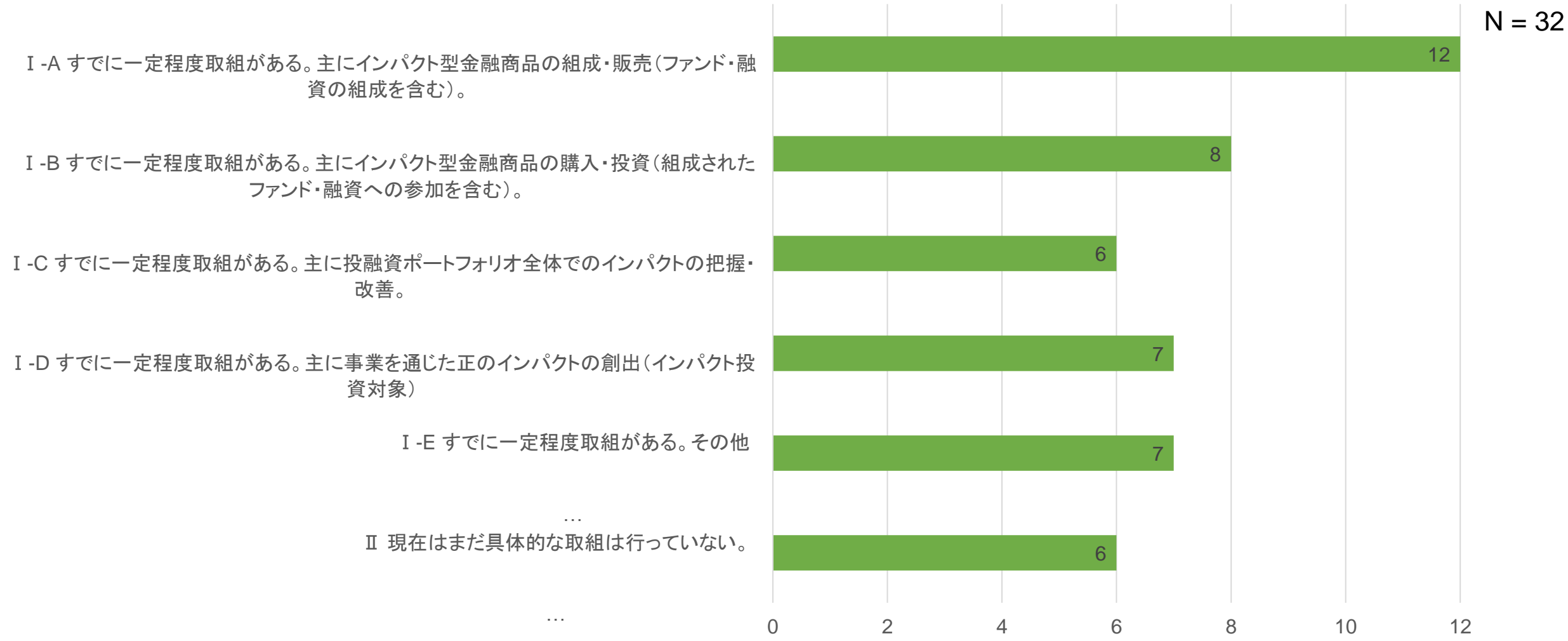
- ✓ リターン改善のためのインパクト考慮は認められる、という意見が一番多い。次いで、サステナビリティ選好、同等リターンの場合、ユニバーサルオーナーの立場、はインパクト考慮を認めうる、との意見となっている。
- ✓ SCは過半が署名をしておらず、署名機関の中でもインパクト投資への影響は不明との声が多い。

【インパクト評価】

- ✓ インパクト評価は行われている場合にも課題があり、評価自体不十分という声も多い。
- ✓ 課題を感じていない会社・機関は皆無。また、「よくわからない」という回答も多い。
- ✓ 独自の評価、外部ツールをアレンジした場合双方において課題を感じている。
- ✓ 現状は、定性的、比較検討しない又は同種のプロジェクト間での比較のみの評価が多い。
- ✓ 今後については、同種のプロジェクト間での比較可能性を求める意見が多い。

＜質問1＞ 御社の現状に最も近い選択肢はどれですか。なお、御社がインパクト投資実施機関に対してサービス提供されている場合は、顧客の取組を選択してください。

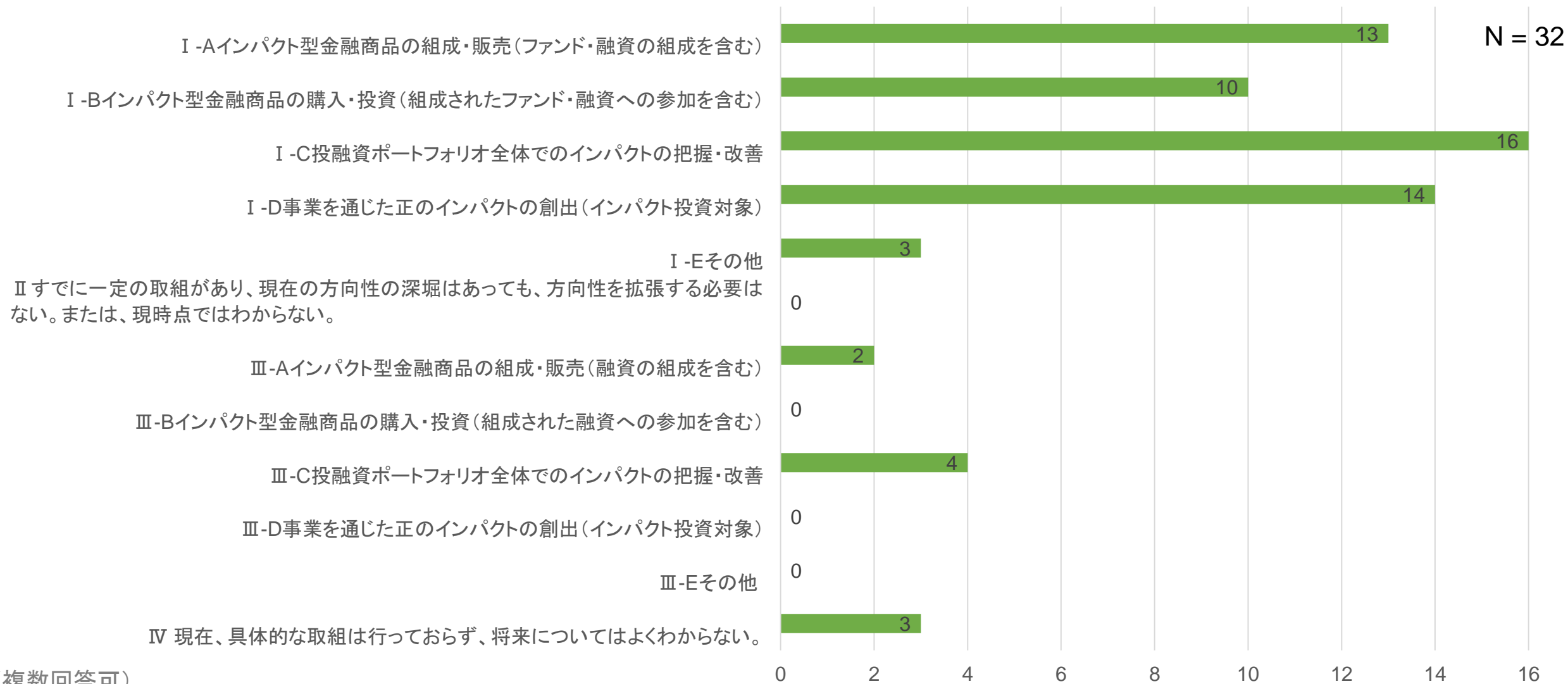
● 具体的取組みを実施していない会社・機関は少数派であり、「金融商品の組成・販売」が一番多いが、その他も多様な取組みがなされている。



(複数回答可)

<質問2> 御社のインパクト投資の将来の方向性に関し、あなた自身が、御社の将来の方向性として望ましい、ないし重要であると考える選択肢はどれですか。

● インパクトの把握・改善、事業を通じた正のインパクト創出、商品の組成・販売が重要と考えられている



(複数回答可)

<質問3> 御社のインパクト投資に関する立ち位置は次のどれでしょうか？

<質問4> あなた自身は、将来的に、会社がどのようなスタンスを取るべきだと思いますか。

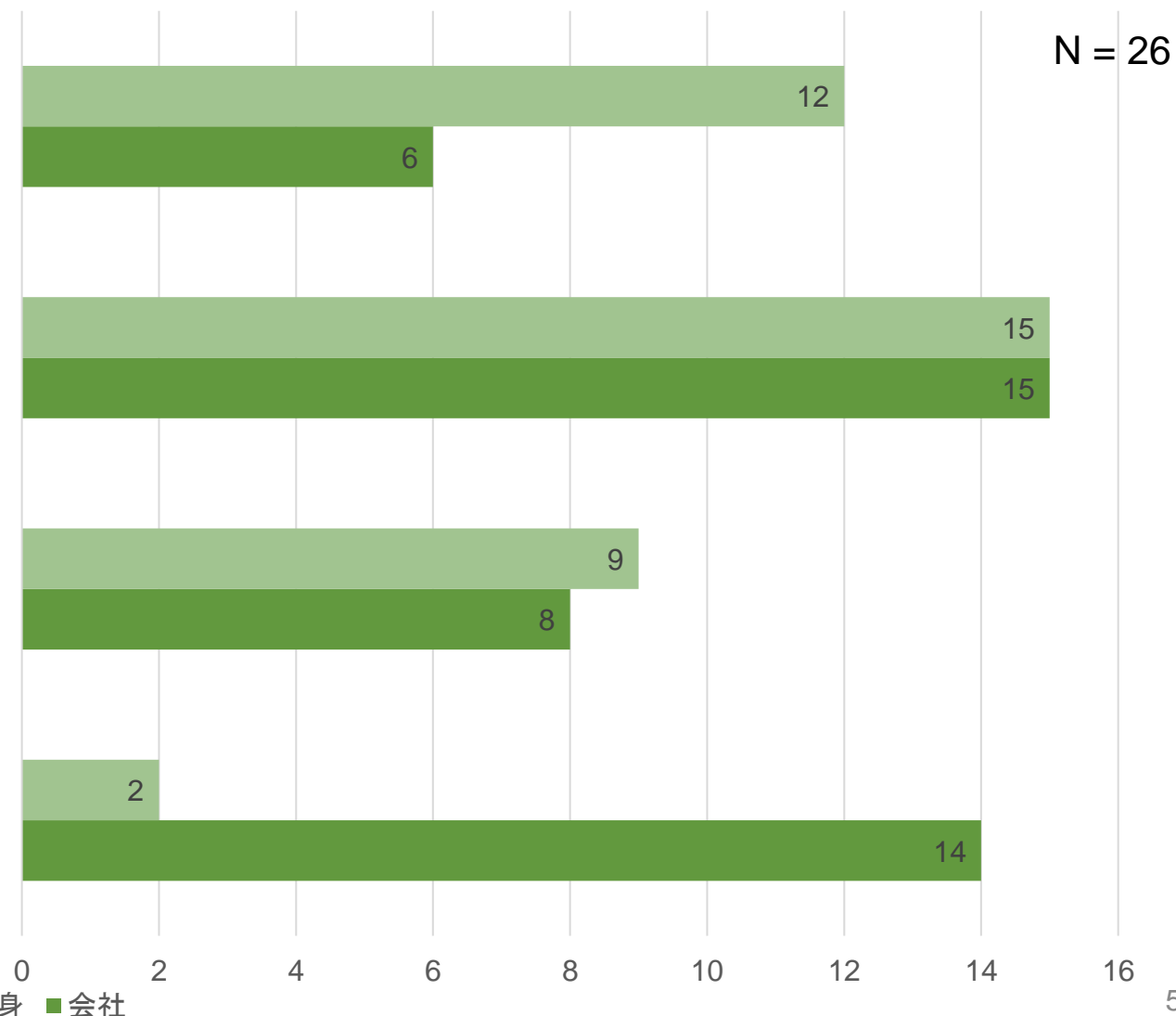
- 会社の立ち位置、個人としての見解のいずれも、通常と同程度のリスク・リターンで高いインパクトを追求している。
- 個人として、現状に比して「インパクトの追求によりリスク・リターンを改善させる」方針をとるべきという意見が多い。

A 適切な領域でのインパクトを追求することでリスク・リターンを改善する、もしくは、クレジットリスクを低減できると考えており、そのような効果が期待できる範囲で、インパクト投資を行っている。

...
B インパクトを追求することによってリスク・リターンを改善するとまでは言わないが、少なくともリスク・リターンを害さない範囲でインパクトを追求することは可能だと考えており、通常の投資と同程度のリスク・リターンで、より高いインパクトをもたらす投資機会を追求してインパクト投資を行っている。

C 投融資である以上、一定のリスク・リターンを実現することは当然だが、インパクトを全く生まない、もしくはネガティブなインパクトを生む投資と比べれば、直接的なリスク・リターンの水準が多少劣る可能性を否定していない。

D 以上のどれにも当てはまらない。



(複数回答可)

<質問3> 御社のインパクト投資に関する立ち位置は次のどれでしょうか？

<質問4> あなた自身は、将来的に、会社がどのようなスタンスを取るべきだと思いますか。

- 立ち位置が明確でなかったり、ユニバーサルオーナーシップ論を取る企業が多い
- 個人としての方向性は、ユニバーサルオーナーシップ論と2軸論が拮抗している

A 適切な領域でのインパクトを追求することでリスク・リターンを改善する、もしくは、クレジットリスクを低減できると考えており、そのような効果が期待できる範囲で、インパクト投資を行っている。

B インパクトを追求することによってリスク・リターンを改善するとまでは言わないが、少なくともリスク・リターンを害さない範囲でインパクトを追求することは可能だと考えており、通常の投資と同程度のリスク・リターンで、より高いインパクトをもたらす投資機会を追求…

B-1 そのことによって負の外部性を削減・正の外部性を創出し、長期的・間接的にユニバーサルオーナーのポートフォリオ全体の利益に貢献している。

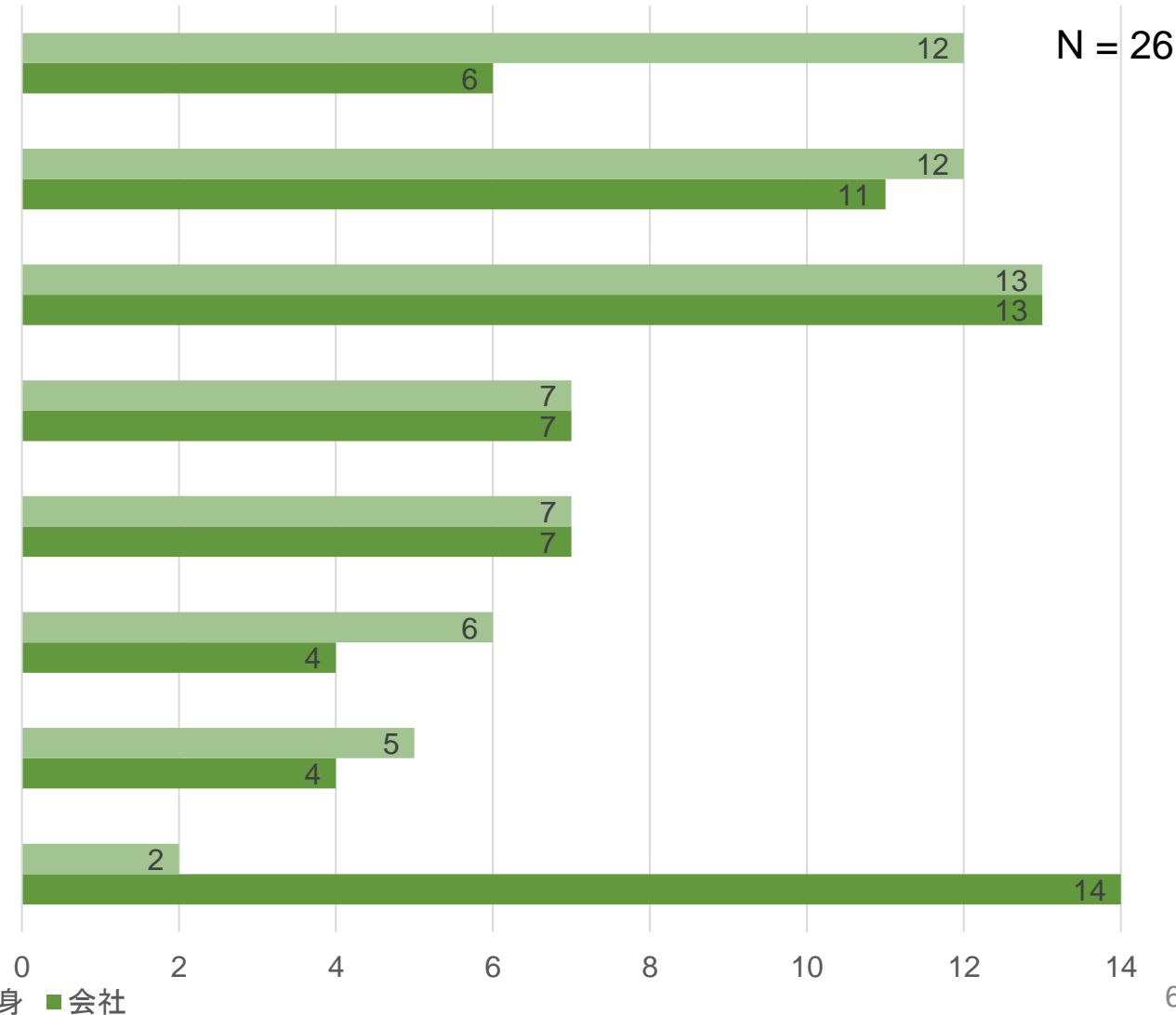
B-2 そのことによって資金の最終的な出し手のインパクト志向・サステナビリティ選好に応え、資金の出し手の効用(満足)に貢献している。

C 投融資である以上、一定のリスク・リターンを実現することは当然だが、インパクトを全く生まない、もしくはネガティブなインパクトを生む投資と比べれば、直接的なリスク・リターンの水準が多少劣る可能性を否定していない。

C-1 そのことによって負の外部性を削減・正の外部性を創出するので、長期的・総合的に考えれば、ユニバーサルオーナーのポートフォリオ全体の利益を守ることができる(全体最適)と考えている。

C-2 そのことによって資金の最終的な出し手のインパクト志向・サステナビリティ選好に応え、資金の出し手の効用(満足)に貢献している。投資家のリスク選好の違いに応じてローリスク・ローリターンが許容されるのであれば、投資家のサステナビリティ選好によって…

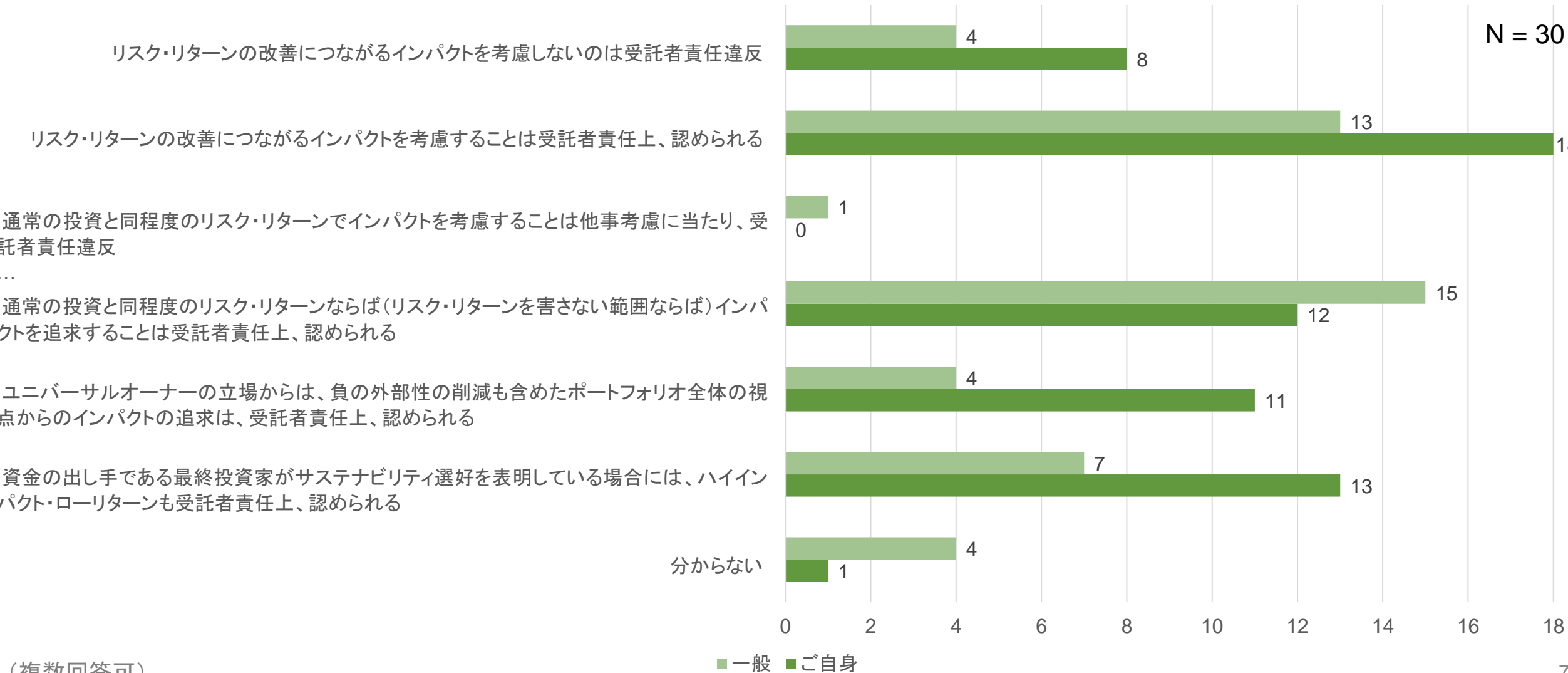
D 以上のどれにも当てはまらない。



(複数回答可)

<質問5> 【受託者責任】受託者責任とインパクト投資の関係について現在の一般的な解釈はどれだと思いますか。また、あなたご自身はどの解釈が妥当だと思いますか。

- リターン改善のためのインパクト考慮は認められる、という意見が一番多い。次いで、サステナビリティ選好、同等リターンの場合、ユニバーサルオーナーの立場、はインパクト考慮を認めうる、との意見となっている。

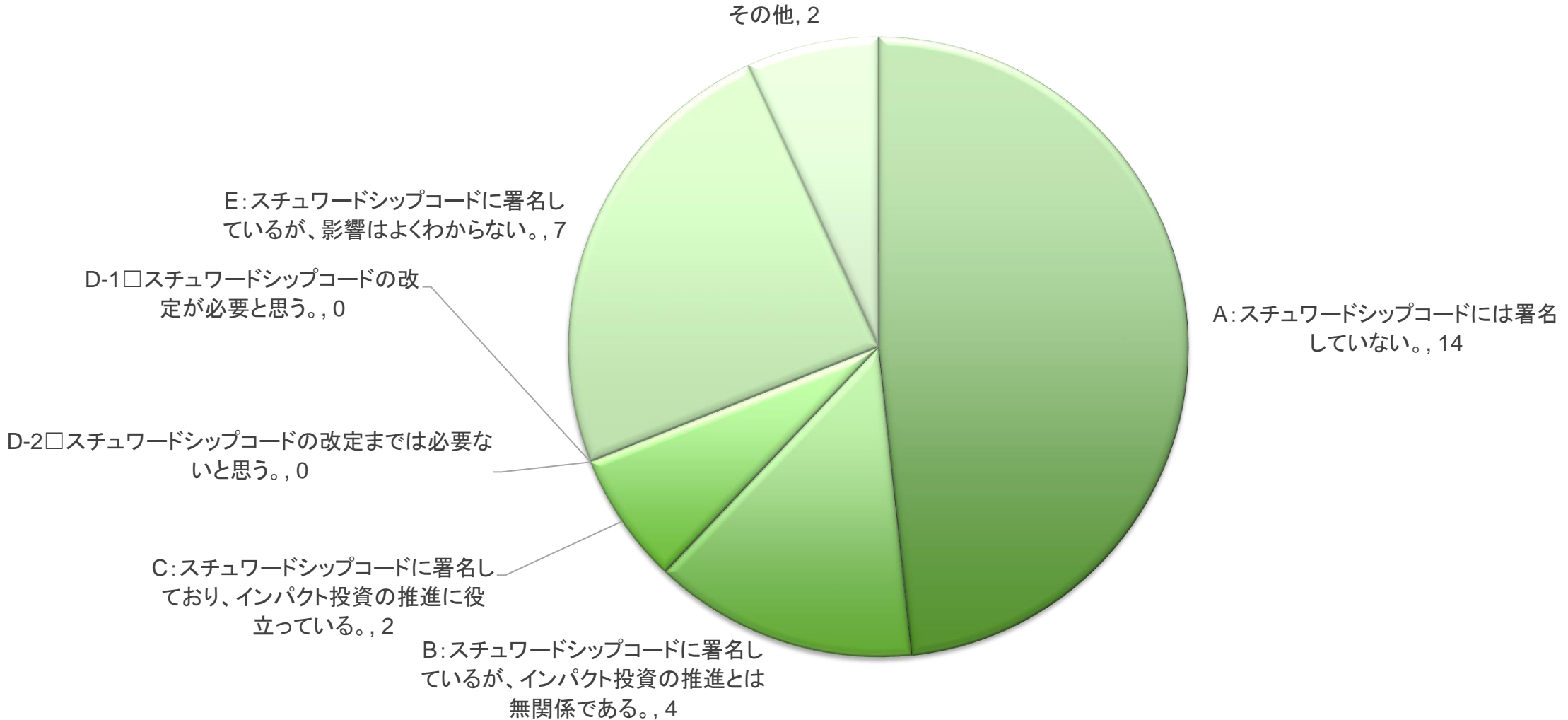


(複数回答可)

【質問6：スチュワードコード】御社はスチュワードシップコードに署名されていますか。また、そのことは、インパクト投資を推進するうえでどのような影響があると思われますか。

- おおよそ半数がSCに署名をしておらず、署名機関の中でもインパクト投資への影響は不明という意見が多い。

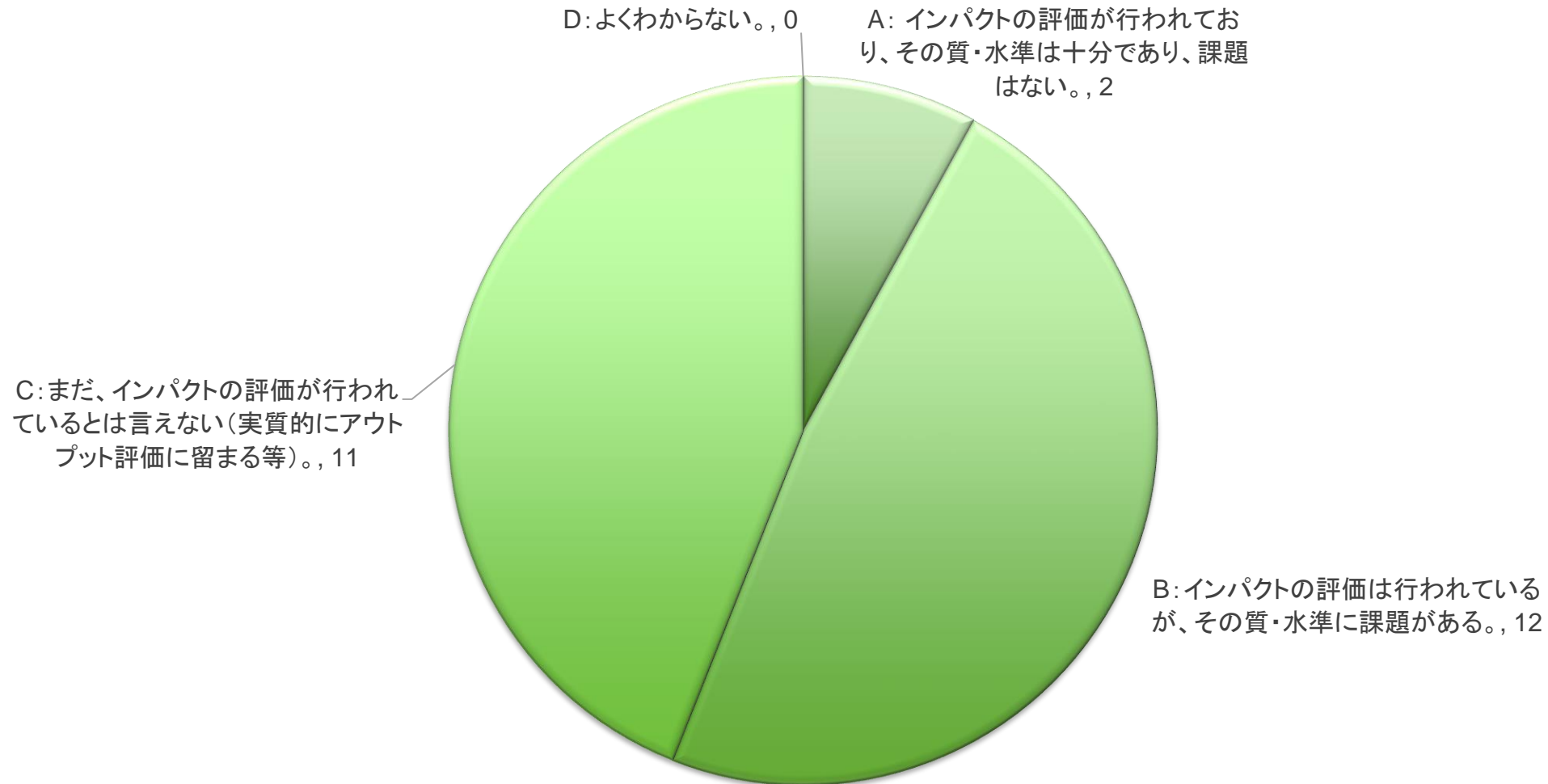
N = 29



【質問 7-1：インパクト評価について（1）】すでに一定程度取組をされている方に伺います。御社におけるインパクト評価の内容について、あなたご自身はどう考えていますか。

- インパクト評価は行われている場合にも課題があり、評価自体不十分という声も多い。

N = 25



【質問 7-2：インパクト評価について（2）】インパクト評価の手法については、どのような課題があるか、お答えください。

- インパクト評価に課題を感じていない会社・機関は皆無。また、「よくわからない」という回答も多い。
- 独自の評価、外部ツールをアレンジした場合双方において課題を感じている。



(複数回答可)

【質問8：インパクト評価について（3）】すでに一定程度取組をされている方に伺います。御社におけるインパクト評価の内容はどのようなものでしょうか。また、あなたご自身は、どこまですべきだと考えますか。

- 現状は、定性的、比較検討しない又は同種のプロジェクト間での比較のみの評価が多い。
- 今後については、同種のプロジェクト間での比較可能性を求める意見が多い。

会社の現状: N = 20
個人の見解: N = 22

